



盗人道と明神様

昔このあたりの山には大きい木が茂っていて、昼なおくらしいところが多かった。そしてその山と山を縫うように細い道が通っていて、雨の日や雪の日の通行はとても困難をきわめていた。相馬から福島への道は、何本も通っていたが余り広い道はなかった。ただ馬を引いて歩ける位の道は大道とでもいう位で、旅の安全を祈るために到るところに観音様や地藏様などが建てられ、旅人はそこに留っておさい銭を投げながら拝んだり、連れ人を待つて休んだりしていた。今から約二百年前の天明年間には、この地方は大凶作で米も実らず、畑の作物も普通の年の半分もとれなかった。そこで、生活に困って夜ひそかに村を逃げ出す人も多かった。そのころ相馬地方は伊達地方と違って田も多く米の収穫も多いし気候も良いので割合に伊達地方よりはくらしがらくであった。布川入の岫部落から笹田に越